



手子林公民館 令和4年度の新刊①

『同志少女よ、敵を撃て』 逢坂冬馬 著

2022年本屋大賞

農村に暮らす女性が「戦いたいのか、死にたいのか」究極の二者択一の選択後、独ソ戦、狙撃兵として、価値観や倫理観といった自身の内面が無自覚に変化していくさまが描かれる。第11回アガサ・クリスティー賞大賞受賞作。

『夜に星を放つ』 窪美澄 著

2022年直木賞

かけがえのない人間関係を失い傷ついた者たちが、再び誰かと心を通わせることができるのかを問いかける短編集。心の揺らぎが輝きを放つ傑作。

『おいしいごはんが食べられますように』 高瀬 隼子 著

2022年芥川賞

「二谷さん、わたしと一緒に、芦川さんにいじわるしませんか」心をざわつかせる、仕事+食べもの+恋愛小説。ままならない微妙な人間関係を「食べること」を通して描く傑作。

『52ヘルツのクジラたち』 町田その子 著

2021年本屋大賞

「わたしは、あんたの誰にも届かない52ヘルツの声を聴くよ」自分の人生を家族に搾取されてきた女性・貴瑚と、母に虐待され「ムシ」と呼ばれていた少年。孤独ゆえ愛を欲し、裏切られてきた彼らが出会う時、新たな魂の物語が生まれる。

『赤と青とエスキース』 青山美智子 著

2022年本屋大賞2位

この本を読み終わったとき最初に思い浮かんだ人を、どうか大切にしてください——。メルボルンの若手画家が描いた一枚の「絵画（エスキース）」。日本へ渡って三十数年、その絵画は「ふたり」の間に奇跡を紡いでいく——。二度読み必至！ 仕掛けに満ちた傑作連作短篇。

『#真相をお話しします』 結城真一郎 著

ミステリ界の超新星が仕掛ける五つの罠。子供が四人しかいない島で僕らは「YouTuber」になることにした。でも、ある事件を境に島のひとたちが……。日本の〈いま〉とミステリが禁断の融合！緻密で大胆な構成と容赦ない「どんでん返し」の波状攻撃に瞠目せよ。日本推理作家協会賞受賞作を含む、痺れる五篇。

『死刑にいたる病』 櫛木理宇 著

鬱屈した大学生活を送る雅也は、連続殺人犯の大和から冤罪の証明を頼まれる。戸惑いつつ調査する雅也が辿りついた驚愕の真実とは。2022年5月映画化・公開。

『おいしい旅』 初めて編

訪れたことのない場所、見たことのない景色、その土地ならではの絶品グルメ。様々な「初めて」の旅を描いた7編。読めば必ず出かけたくなる、文庫オリジナルアンソロジー。

『13歳からの地政学 カイゾクとの地球儀航海』 田中 孝幸 著

子どもも大人も知っておきたい世界のしくみ！高校生・中学生の兄妹と年齢不詳の男「カイゾク」との会話を通じて、「地政学」が楽しくわかりやすく学べる一冊

『わたしの美しい庭』 凧良ゆう 著

マンションの屋上庭園の奥にある「縁切り神社」。そこを訪れる〈生きづらさ〉を抱えた人たちと、「わたし」の物語。本屋大賞受賞『流浪の月』の凧良ゆうが贈る、救いに満ちた感動作！

親子向け

作ろう！遊ぼう！『5～7才のおりがみ』 ～いろんなおりがみ、みんなであそびましょ！～
親子でたのしむ『やさしいおりがみ』

「第1集 はれる・うごく おりがみ」「第2集 かざれる・つかえる おりがみ」

新刊情報



手子林公民館

令和4年度の新刊②

『荒地の家族』 佐藤 厚志 著

あの災厄から十年余り、誰もが何かを失い、元の生活には決して戻らない。仙台在住の書店員作家が描く、止むことのない渴きと痛み。

2022年
芥川賞

『この世の喜びよ』 井戸川 射子 著

思い出すことは、世界に出会い直すこと。静かな感動を呼ぶ傑作小説集。喪服売り場で働く「あなた」は、フードコートの常連の少女と知り合う。

『地図と拳』 小川 哲 著

ひとつの都市が現われ、そして消えた。満洲の名もない都市で繰り広げられる知略と殺戮。日本 SF 界の新星が放つ、歴史×空想小説。

2022年
直木賞

新刊情報

『しろがねの葉』 千早 茜 著

戦国末期から江戸初期の石見銀山を舞台に、銀堀の妻になった女性の一代記。 生きることの官能を描き切った新境地にして渾身の大河長篇！